

# 持続可能な行政へ 待ったなし！行財政改革③

## 周防大島町生活バス交通の改善策について（経費削減効果3100万円）

### ◆バス路線運行水準および経費負担状況（平成18年度実績）

路線名	系統数	運行便数 (平日)	欠損額 (千円)	輸送人員	キロ当たり 運行経費	輸送1人当 り町負担額
大島本線	3	43便	△39,592	181,345人	224円	114円
安下庄線	1	30便	△43,420	123,234人	344円	167円
白木半島線	6	15便	△14,910	32,843人	193円	423円
奥畑線	1	14便	△4,750	11,428人	154円	250円
計	11	102便	△102,672	348,850人	—	—

周防大島町内のバス路線については、平成14年4月の再編から現在まで次のような運行を行っています。これらのバス路線において生じた欠損は、国・県・町が全額負担しており、平成18年度の実績および平成16年度から18年度までの運賃収入および町負担額の動向は次のとおりです。

### ◆運賃収入および町負担の推移

単位：千円

区分	16年度		17年度		18年度	
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率
運賃収入	132,388	△7.2%	123,404	△6.8%	118,933	△3.6%
町欠損負担額	45,307	11.9%	50,486	11.4%	55,782	10.5%
標準財政規模	9,177,268	△1.7%	9,280,490	1.1%	9,144,736	△1.5%

※増減率は対前年比です。

※標準財政規模とは、地方公共団体の一般財源の標準規模を示すものです。

### 平成19年10月1日実施の生活バス交通改善策

1. 大島本線および安下庄線を防長交通(株)が1社運行し、コストの低減を見込む。
2. 防長交通(株)の安下庄線参入に伴い白木半島線について、城山小学校他2校のスクールバスを町が運行し、これに一般利用者の混乗を行う。
3. 大島本線および安下庄線の効率化を図るため運行回数の見直しを行い、現行の8割程度の運行便数にする。
4. 町立病院の患者輸送車は当面維持し、一元化については将来の課題とする。
5. 将来ともバス路線の維持を図るため、一般住民、県立高校の通学生および町職員の利用促進を進める。

以上の改善策の試算を行った結果、約3,100万円程度の経費削減効果が見込めます。

以上の現状から町内の生活バス交通の問題点として次の点が挙げられます。  
○現在のバス路線は、すべて赤字路線でその赤字を国県補助金および町が負担しているが、町の財政規模が縮小するなか、近年利用者の減少とともに、国県の補助率が低下し町負担が毎年10%以上伸びている。  
○1キロ当たりの運行経費並びに輸送人員1人当たりの町の負担額は、路線によりバラつきがある。

○路線バスと同じ路線にスクールバスや患者輸送車が運行され、そのために路線バスの利用者が減少する状況がある。  
これら生活バス交通の問題点を検討するため、庁内に「生活交通政策検討委員会」を設置し、町議会交通体系小委員会等の助言を得ながら検討を進め、平成19年10月1日以降の当面の改善策として次の対策を実施することとしましたので、ご協力をお願いします。